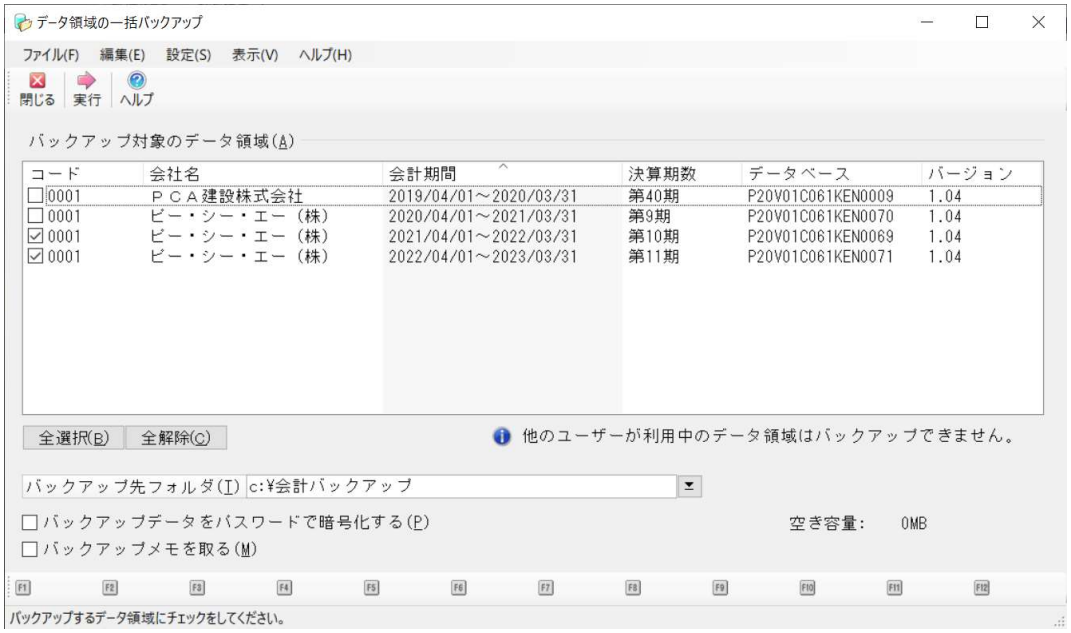
◆期末更新処理（再更新）の操作手順

（画面例『PCA 建設業会計シリーズ　バージョン DX（システム B）』使用）

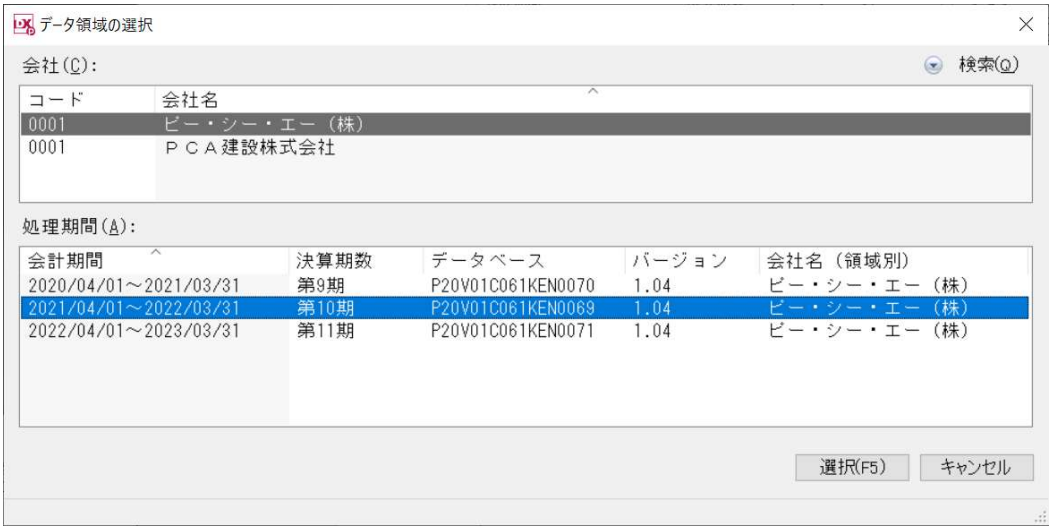
■「期末更新処理（新規更新）」を実行した後、前年度の仕訳データが変更された場合に実行します。
決算が確定するまでに２ヶ月ほどありますので、前年度の残高を新年度へ反映させる場合は、「期末更新処理（再更新）」を実行してください。
なお、再更新は何度でも実行することができます。

【操作手順】

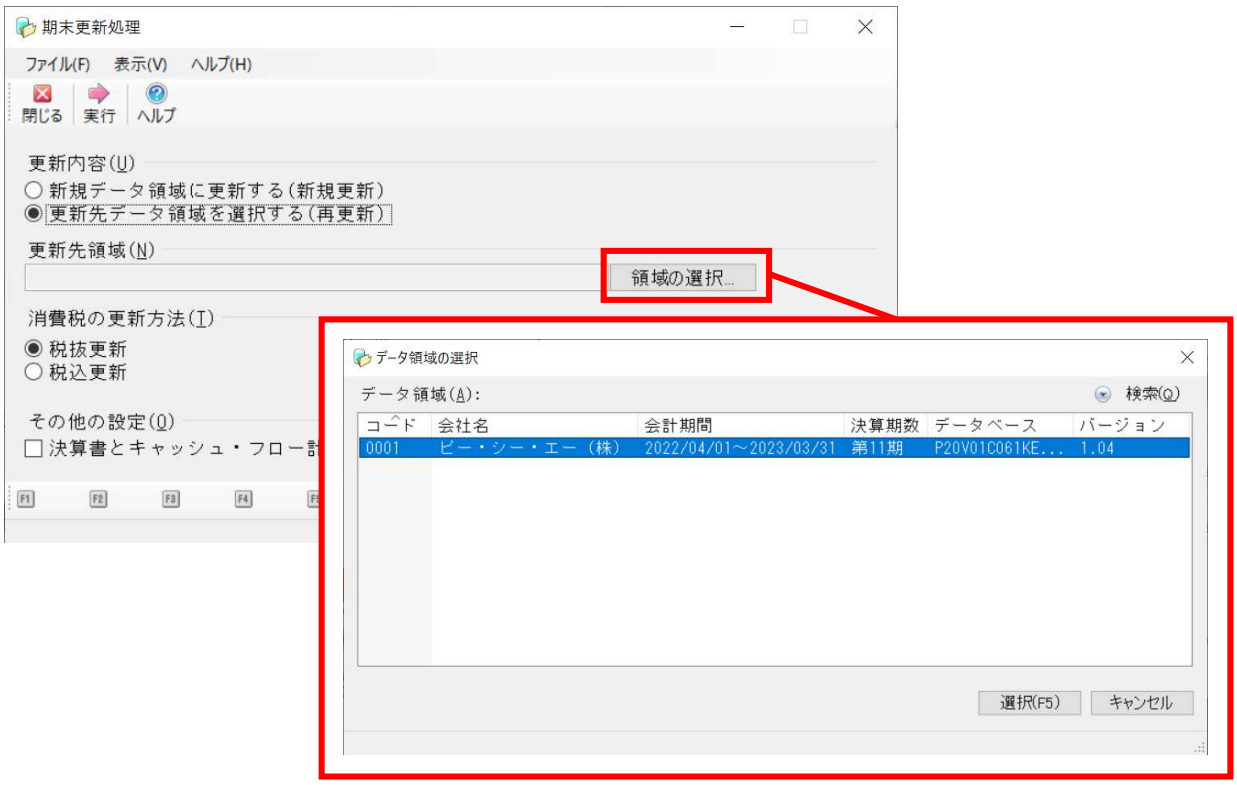
① 作業中のトラブルに備え、「ファイル」－「データ領域の一括バックアップ」にて前年度・新年度のバックアップを実行します。
例：ピー・シー・エー㈱　　第10期、第11期のバックアップをCドライブの「会計バックアップ」フォルダに保存します。



② 「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、前年度を選択して［選択］を押します。
例：ピー・シー・エー（株）2021/04/01～2022/03/31　第 10 期を選択します。



③ 「ファイル」ー「期末更新処理」を選び、［更新先データ領域を選択する（再更新）］を選択し、［領域の選択］をクリックします。
選択画面で新年度を選択し［OK］をクリックします。

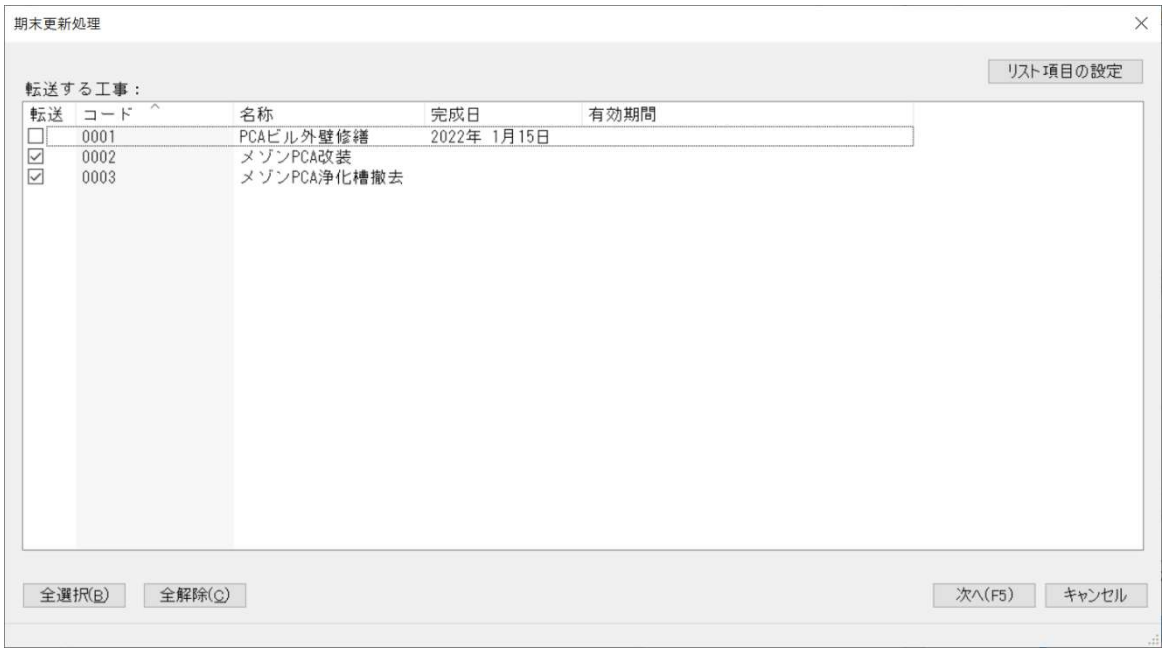


④ 更新先領域が新年度になっていることを確認し［実行］します。

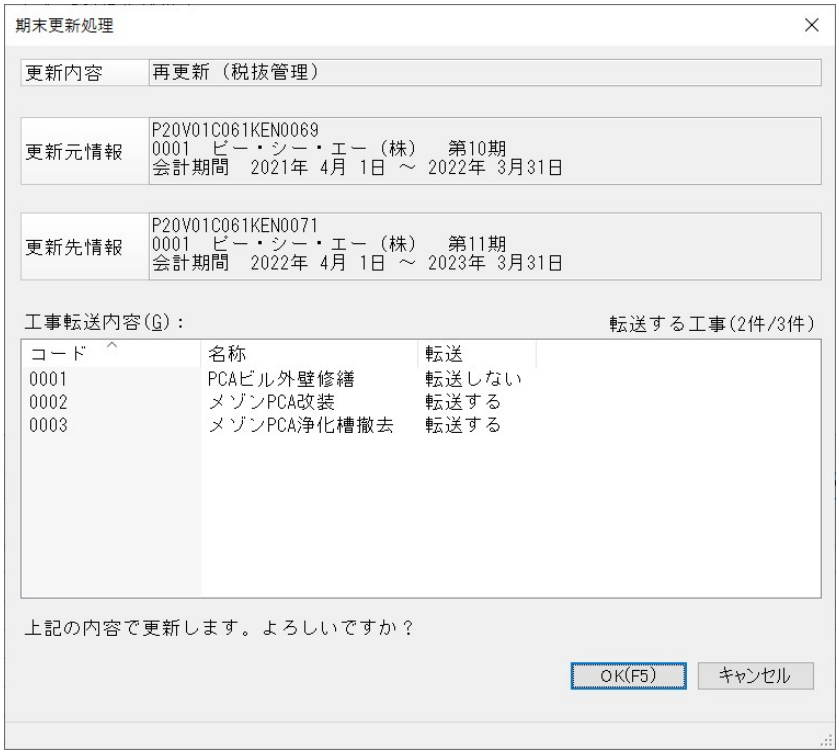
※［税抜更新］［税込更新］は、会社の経理方法に合わせて選択してください。
　一つの目安として、決算整理仕訳に仮受消費税等、仮払消費税等の相殺仕訳を入力し、税抜の決算書を作成している場合は［税抜更新］を選択します。
　免税事業者などで仕訳を税込で処理している場合は、［税込更新］となります。

※前年度で決算書とキャッシュ・フロー計算書の項目名称の変更や行挿入といった編集をし、その内容を新年度に反映したい場合にチェックを入れてください。
　ただし、新年度にて異なる編集を行っている場合は、前年度の編集内容が上書きされてしまいますので、ご注意ください。

⑤ 「転送する工事」画面が表示されますので、翌期に転送する工事にチェックマークを付けます。
工事の受け渡しが済み、翌期にデータを入力する必要がない工事に関しては、チェックマークを外します。
※前回選択した状態で表示されます。
選択が終わりましたら［次へ］をクリックします。



⑥ 更新先領域が新年度になっていることを確認し［OK］をクリックします。



⑦ 更新処理完了の画面が表示されますので、内容を確認し［OK］をクリックします。

⑧ 「ファイル」－「データ領域の選択」を選び、新年度を選択します。
例：ピー・シー・エー㈱　2022/4/1～2023/3/31　第 11 期を選択します。

新年度に切り替え、「前準備」－「期首残高の登録」・「工事情報処理」－「工事別残高の登録」等で残高の確認をしてください。

以上で処理は完了です。